

改訂版

# 女性の視点でつくる防災

## これで安心トイレ対策編



川崎市男女共同参画センター

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト

● はじめに	02
● I. 災害時、時間経過を考慮したトイレ対策の考え方	03
● II. トイレ問題の流れ	04
● III. 配水管がこわれたかもしれない時	05
A. 水で流さない方法(個室トイレ)	
1. 凝固剤付きトイレ袋法	
2. 猫砂法	
3. たたんだ新聞紙法	
4. 新聞紙・コップ法	
5. Q&A	
● IV. 個室トイレが使えない時	09
B. 代用トイレを準備する	
1. 手作りのトイレ	
2. 市販のトイレ	
● V. 外出している時は?	11
● VI. 断水している時も衛生的に	13
○手洗い・消毒液の作り方など	
● VII. トイレごみについて	15
● VIII. トイレを守って健康を守る	15
● 付録：いざとき簡易トイレの作り方	16

<必ずお読みください>

本資料の内容を無断で転載、複製、放送、データ配信などを行うことは、固くお断りしております。本書に含まれる情報は、川崎市男女共同参画センターとの協働事業として「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」のメンバーが作成したものです。本書に書かれた内容、情報を使用した結果や損害に対しては、本書の情報通りに行動した結果が否かにかかわらず、当プロジェクトや発行者は、いかなる責任も負うものではありません。

# はじめに

## なぜ私たちは、トイレ問題に取り組んでいるのか

2012年9月、川崎市男女参画センターの呼びかけにより集まったボランティアメンバー5人は2011年3月におこった東日本大震災を他人事ではなく我が身の事と捉えていました。予測される大震災に備えて出来る事は何か……？

近年の大地震後の被災地での調査から例えば、避難所のトイレの設置場所、設置個数、トイレの様式等によって予想以上に使いづらくトイレを我慢し、膀胱炎や外陰炎など健康被害が多数あったと報告されています。特に災害時に弱者となり得る立場の人（持病がある、妊産婦、乳幼児、障害者、介護を要する人、性的マイノリティの人等）への配慮まで、行き届かなかったところが多かったようです。

また、トイレの清掃や維持管理の担い手に偏りがあったり、生理用品の渡し方をはじめプライバシーの確保を困難にしていたりと、従来の防災は人任せであり実際の様々なニーズに対応することが困難になることが浮き彫りになりました。被災直後そして避難生活の間には、報道ではほとんど取り上げられてこなかった様々な問題がある事に驚き、物資面だけでなくむしろ心身に関わる問題のほうがより深刻で、長くその後遺症に悩まされているという事がわかってきました。

そこで私たちは、食べものを口にしていなくても、すべての人に起こる生理現象である「排泄」と「トイレの問題」を第1のテーマに選びました。トイレ問題を自分の問題として捉える事とし、解決していく事で自助力の向上につなげよう、市民の皆さんとも共有していこうという思いで、情報収集、研究、講座企画、冊子作りをしました。今後も健康管理や防犯といった生活全般にかかわる問題も合わせて、引き続き包括的に取り組む事にしています。

## 女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト (JKB) について

### 【具体的な活動内容】

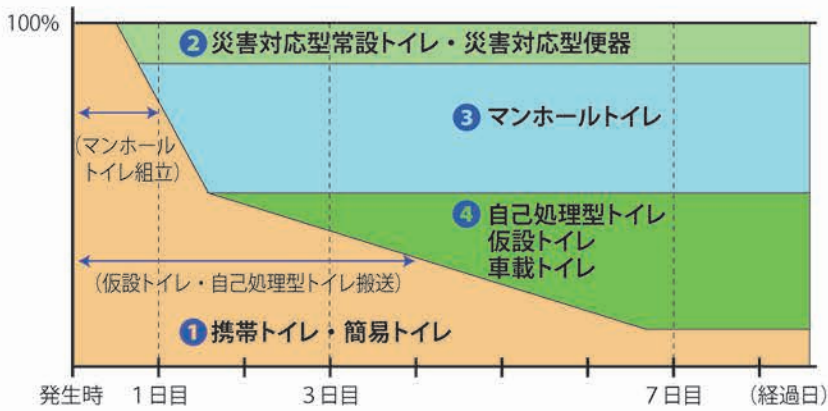
- ①女性の視点から見出した災害時の課題調査・研究とその結果・情報の発信
- ②防災講座の企画と実施
- ③要望のある地域の防災訓練等への出前講座
- ④市や区で行われる防災訓練への出展による啓蒙活動

私たちは、①通常生活における防災に対して主体的、自助的であること ②防災の取り組みを通してメンバー自身が自助力を高め、家族や近隣地域のために役立つ一人となること ③地域に根ざした繋がりを通して既存の組織との連携、女性の参加が可能な地域運営づくりに努めることを基本姿勢としています。被災者の方々が直面した困難と経験知を、今後の川崎市における女性の視点で捉えた防災・減災の取り組みとして共学共有し、地域の自助力向上に役立てていただけるように活動をしていきます。

現在、共に学び活動していける人を増やしていきたい、随時メンバーを受け付けています。地域のために活躍できる女性がさらに増えていく事を願いつつ、興味関心がある方の応募をお待ちしております。

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(通称：JKB)メンバー 一同

# 災害時、時間経過を考慮したトイレ対策の考え方



資料：国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」  
(2016年3月)より作成

災害用トイレは様々な種類があります。上記のように、それぞれの災害用トイレ(①～④)の特性を踏まえ、時間経過と被災状況に応じた**組み合わせ**で、避難所等において良好なトイレ環境を**切れ目なく提供**するよう努める必要があります。同時に、**衛生面に配慮**したトイレの維持管理(⑤)も求められます。

## ①携帯トイレ・簡易トイレ



## ③マンホールトイレ



注)すべてのマンホールにつかえるわけではない。

## トイレ問題の流れ

## 大地震！

個室トイレが使える

配水管が壊れたかもしれない！  
流すと詰まったり、汚水が漏れる

個室トイレを守りましょう！

すぐ、45リットル袋を便座にかぶせて、  
タンクと便座の水を抜きます

### A. 水で流さない方法（個室トイレ）

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 凝固剤付きトイレ袋法 | 2. 猫砂法      |
| 3. 新聞紙・コップ法   | 4. たたんだ新聞紙法 |

排水設備を点検する

上下水道の復旧で、安心して流せるようになります。

※注意

私有地の配水管だけではなく、自治体の排水設備（下水道本管や汚水処理場など）も破損する場合がありますので、広報に注意しましょう。

個室トイレが使えない時

### B. 代用トイレを準備する

#### 1. 手づくりのトイレ

- (1) レジ袋トイレ
- (2) ポリ容器トイレ
- (3) ダンボールトイレ
- (4) 紙箱トイレ

#### 2. 市販のトイレ

- (1) 折り畳みイストイレ
- (2) ボックス型トイレ
- (3) 携帯用トイレ袋

#### 3. 仮設トイレ

- (1) マンホール・トイレ
- (2) ワンボックス・トイレ
- (3) 組み立て式トイレ  
（「ドントコイ」など）

## 配水管がこわれたかもしれない時

## A. 水で流さない方法（個室トイレ）



## 【準備】

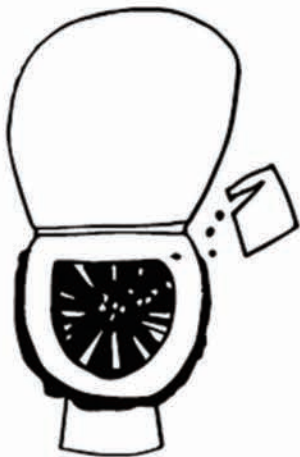
- ①すぐ、個室トイレを「一時使用禁止」にします。
- ②4.5リットルポリ袋を2重にして便器にかぶせる。  
（普通のゴミ袋でよい：自宅のトイレに置いておく）
- ③貯水タンクと便器の水を、それぞれ別の容器に移す。  
（コップで汲み出すか、ビニールポンプを使う）  
便器内の水は、少し残しておく（匂い防止のため）
- ④ポリ袋の中に、凝固剤か吸収材（新聞紙・猫砂など）を  
いれておく。
- ⑤これで使用できます。

◇貯水タンクの水はきれいなので、洗濯などに使う。

便器内の水は、トイレ掃除に使う。

◆便器が汚れたり詰まったりすると、個室トイレが使えなくなります。断水でトイレを掃除する水も十分に確保できなくなるかもしれません。

## 1. 凝固剤付きトイレ袋法



○4.5リットルポリ袋と凝固剤をセットにしたものが、市販されています。ポリ袋に吸水シートを貼った型もあります。

○湿気の少ない場所に保存して下さい。

（保存期間は約5年）

①尿のあと凝固剤を振り入れて固めます。

（凝固剤10gで凝固できる尿量は500～900ccです）

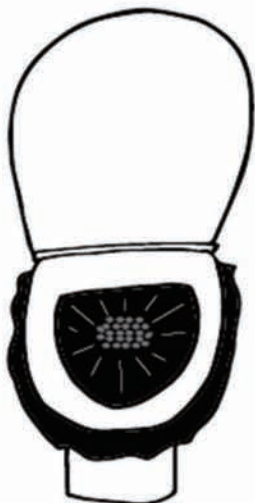
②便が出たら凝固剤を入れて、ポリ袋ごと取り換えます。

（備蓄量が少ない時は、その都度取り換えず便の上に新聞紙を乗せて、また使用する）

③ゴミはふた付きのポリバケツか、ダンボール箱（ポリ袋2重にして入れる）の中に入れて外に置きます。

¥ポリ袋・凝固剤のセット10組 1,500円

## 2. 猫砂法



- 市販されている「猫のトイレ用の砂」を使います。  
(紙製の燃えるゴミとして出せるタイプが良い)
- 湿気が少なく直射日光の当たらない場所に保存して下さい。
- ①ポリ袋の中に、猫砂を2～3カップ位入れておきます。
- ②尿のあと、上から新しい猫砂をかけておくと次の人が使いやすい。
- ③猫砂が吸水しなくなったり便が出た時は、袋ごと取り替えます。

### ◆注意

ポリ袋に穴があいて猫砂がもれると、排水管が詰まってしまう。厚手のポリ袋を使うか、ポリ袋を2重にして下さい。

¥ 1 袋(7リットル入り) 528 円

## 3. たたんだ新聞紙法



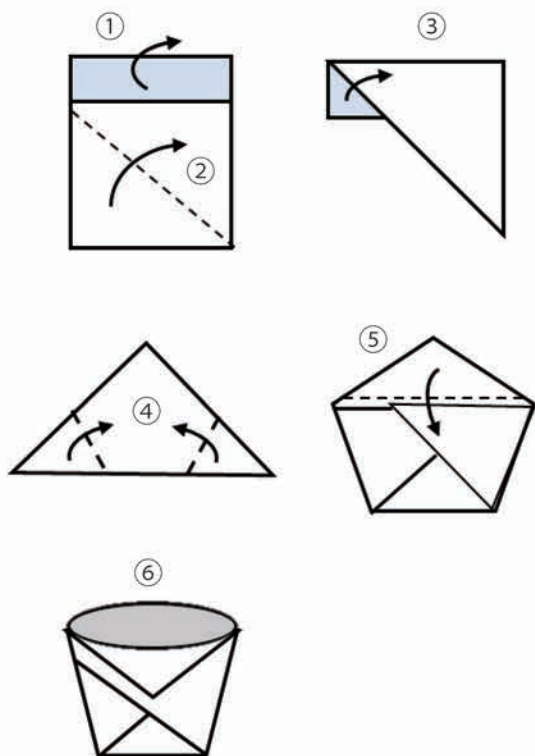
- ①半分に折った新聞紙1枚を、さらに8分の1にたたむ。
- ②1枚ずつたたんだ新聞紙5～6枚をかさねて、ポリ袋の中に入れる。
- ③用を足したら、上に、たたんだ新聞紙を乗せておく。
- ④②、③をくり返して、たまったら袋ごと捨てる。



## 4.新聞紙・コップ法



### ★尿をとる折り紙コップ



### 【用意する物】

- 1) 新聞紙 2 枚, ツヤのある広告紙 1 枚 (防水用)  
: 便を包んで捨てる
- 2) 尿をとるコップ (どれか 1 つ)
  - ・紙コップ → 使い捨て
  - ・ポリコップ → 個人専用にする
  - ・折り紙コップ → ツヤのある広告紙で折る★
- 3) レジ袋: 尿の時に使った、トイレトペーパーを捨てる。
- 4) フタ付きバケツ (小): 尿を捨てる
- 5) フタ付きバケツ (大): 新聞紙で包んだ便を捨てる  
(ダンボール箱にゴミ袋を被せたものでも良い)

### 【使用法】

- ① ポリ袋の上に縦、横十文字に重ねた新聞紙を敷く
- ② 一番上にツヤのある広告紙を置くと、防水効果がある。  
(ツヤがあるほど防水効果が高い)
- ③ 尿は、コップでとってバケツに入れる。  
(2リットルのペットボトルの上部を切ったものに入れても良い)  
たまったら、雨水溝など迷惑にならない所に流す。  
(尿は無菌なので、衛生上は問題にならない)  
使ったトイレトペーパーはレジ袋に入れる。
- ④ 便は、使ったトイレトペーパーと一緒に新聞紙で包んでゴミバケツに捨てる。
- ⑤ ゴミ収集が始まるまで屋外で保管する。

### ★折り紙コップの作り方

- 「新聞紙・コップ法」で、尿をとる時の使い捨てコップです。尿をとり終わったらトイレトペーパーといっしょにレジ袋に入れます。
- ツヤのある広告紙(びかびかのもの、厚手なら A4 の大きさのものを 2 枚、薄手なら A4 の大きさのものを 3 枚)を用意します(ツヤのある広告紙は、防水性がある)

- ① 正方形を作る時のように、対角線に折りたたむ
- ② 余った部分はうしろに折りたたむ
- ③ 小さい三角は前に折り、大きい三角形にする
- ④ 三角形の左右を図のように中心に向かって、折りたたみ五角形にする
- ⑤ 上の三角形 1 枚は手前に折り、もう 1 枚は逆側へ折りたたむ
- ⑥ 口を広げて完成



## 5.Q&A

### Q1. 便器にかぶせるポリ袋(45リットル)が少なくすむ方法は？

- A. 新聞紙とコップ法です。便を新聞紙で受けて包んで捨てる事ができるため、ポリ袋があまり汚れません。他の方法は匂いや汚れのために、便が出るたびに取り替える必要があります。

### Q2. アンモニア臭が少ないものは？

- A. 凝固剤つきトイレ袋が最も匂いが少なく、次に猫砂、たたんだ新聞紙の順でした。新聞紙・コップ法は尿と便を別々に処理するため、アンモニアの発生が少なく刺激臭も抑えられると思われます。

### Q3. どれくらいの量を備蓄？

- A. 神奈川県は、マグニチュード7.9クラスの地震による被害の予測を発表しています。震度が強かったり、また地盤が弱い地域などでは自宅の排水管と公共の下水道設備のどちらか、または両方がこわれて2～3か月間トイレを流せない状態になる可能性があります。それに備えるためには多量の備蓄が必要になりますが、収納スペースや価格の面で難しいため凝固剤付きトイレ袋や猫砂等の備蓄が無くなったら、新聞紙を使う方法に切り替えるのが現実的です。色々な方法を知っておけば、「トイレパニック」を防ぐことができます。また、公園や避難所などに設置される仮設トイレも利用できます。

### Q4. 備蓄できる年数は？

- A. 凝固剤・猫砂は、湿気を吸いやすい吸水性ポリマーを含んでいるため湿気の少ない場所に保存する必要があります。未開封の状態で、5年程度は保存できます。

## B. 代用トイレを準備する

## 1. 手づくりのトイレ

## (1) レジ袋トイレ



折り返す

## (2) ポリ容器トイレ



## (3) ダンボールトイレ

## 1) ダンボールトイレ (JKB 版)



## (1) レジ袋トイレ

- ① レジ袋の横と後ろを外に折り返す。(和式便器の形をまねる)新聞紙があれば、16分の1に折ってレジ袋に入れる。
  - ② 使用後は、レジ袋の口をしばりゴミの収集が再開されるまで外に保管する。
- ★ バッグに凝固剤とレジ袋を1枚入れておくと、外出時の災害で役立ちます。

## (2) ポリ容器トイレ

- ① プチプチシートか古タオルを細長く折って、ビニール袋に入れたものを、2本作る。
- ② バケツやゴミ箱など、しっかりしたポリ容器の縁にガムテープで貼り付ける。
- ③ ゴミ袋をかぶせて、折った新聞紙などを入れ、し尿を吸収させる。

## (3) ダンボールトイレ

## 1) ダンボールトイレ (JKB 版)

ダンボール箱1個と補強用ダンボール板等で構成されています。(詳しくは川崎市男女共同参画センターへお問い合わせ下さい。)

- ① 箱のフタの、折り目から4cmくらいの所に切り目を入れて、下へ折る。
- ② 補強用ダンボールを切って両面テープで中に貼る。
- ③ 底板を作り、布ガムテープで補強材とつなぐ。
- ④ フタをして布ガムテープを貼って防水する。
- ⑤ 外ブタを作る。
- ⑥ ゴミ袋をかぶせ、吸収材(新聞紙等)を入れる。

## 2) キッズ用ダンボールトイレ



## (4) 紙箱トイレ



## 3) キッズ用ダンボールトイレ

避難所の仮設トイレは小柄な幼児にとって、介助をしたとしても使いにくいものです。また屋外で暗い時間帯などは危険性もあり、恐怖感を持つと思われます。小さいダンボール箱を使って、座って足が床に届くサイズに作れば安全です。子どもは普段と違う環境で、情緒も不安定になりがちですが、小部屋にトイレを置いて家族等が見守ってあげる環境を設定すれば、落ち着いて用を足すことができます。

## (4) 紙箱トイレ

- ①紙箱にレジ袋をかぶせる
- ②底に新聞紙を敷く
- ③和式トイレの方法で使用する

◇尿は紙コップなどでとって、バケツに入れるかまたは猫砂や新聞紙などを敷いて吸収させる。  
◇便は新聞紙に包み、フタ付きのゴミ箱に入れる。

## 2. 市販のトイレ

## (1) 折りたたみイス型



## (1) 折りたたみイス型トイレ

(背もたれ付きの型もある)

## (2) ボックス型トイレ

ダンボール箱を組み立てて使用する。  
プラダンボールを使った大型のものもある。

## (2) ボックス型



## ※代用トイレがあっても...

### ◆人目をさえぎるための「目かくし」が必要です。

- 建物内に小部屋を用意して、代用トイレを設置。
- ブルーシートを木の枝からつるしたり、ダンボールで囲いを作る。
- 個室トイレが使えないと視線を遮るために、長いポンチョ、市販の専用ポリ袋、保温用銀色シートをかぶるなどして「目かくし」をする必要があります。



※過去の震災では、物かげや溝に排せつ物があふれる事態が起こりづらい思いをした方が多かったとの事です。

## V

## 外出している時は？

### 1. 外出するときの備え

#### (1) 携帯トイレ袋



#### (2) レジ袋トイレに凝固剤



凝固剤



地震が起きた時に外出していた場合にどうするかを考えてみます(交通機関も麻痺した状態)

#### 1. 外出するときの備え

##### (1) 携帯トイレ袋

外出時には携帯トイレを持ち歩きましょう。  
(凝固剤と袋がついています)  
車の渋滞用にドラッグストアなどで市販されています。  
(尿の処理用)

##### (2) レジ袋と凝固剤の小袋をバッグに入れておく

「レジ袋トイレ」の方法で便も処理できます。  
これらはかさばらないので、お勧めしたい方法です。

○保温用銀色シートは、用を足す時の目隠しにも 利用できるの、携帯するかロッカーに入れておくと良い。

## 2. 会社や学校などにいた場合

東日本大震災の時の反省から、数日は帰宅せずに留まる方が良いと言われています。そのために企業や学校では、毛布、水、保存食などと共に凝固剤付きトイレ袋を備蓄する所が増えています。発災後、すぐにトイレ袋をセットすることが全員に徹底されている必要がありますので、防災訓練に加えたいものです。ただ、大人数で長期間泊まり込む事態になったらトイレ袋の備蓄が無くなってしまっておそれがあります。その場合の処理法も考えておく必要があります。

## 3. 帰宅困難者になった場合

川崎市では「**帰宅困難者向け防災必携マニュアル**」というパンフレットを、各ターミナル毎に作成しています。川崎駅、武蔵小杉駅、溝口駅、登戸駅編があります。パンフレットには大地震の時の注意事項、日頃の備え、一時滞在施設や帰宅支援ステーションの地図、情報の取り方、伝え方などが書かれています。駅や区役所などで配布されています。

- (1) **災害時帰宅支援ステーション**は、①水道水②トイレ③地図等による道路情報やラジオの情報などの提供に可能な範囲で協力して頂けます。コンビニ、ファストフード店、カラオケ店、ガソリンスタンド、理髪店など協力店のリストがマニュアルに載っています。  
帰宅支援ステーションとなっているコンビニ等では断水していない場合は良いのですが、断水していると水が流せずにたちまち詰まります。また、排水設備が周辺で破損している可能性もあって「流してはいけないトイレ」となってしまいます。  
自宅の場合と同様にお店の方が、45リットルのポリ袋をすばやくかぶせ吸収材をセットして下されば大変助かります。今後はそういう方法が広まればと思っていますが、私達は自力で処理できる用意をしておく必要があります。
- (2) **帰宅困難者一時滞在施設**を利用する時は、施設側の職員や従業員だけでは対応できないので避難者が協力して混乱を予防する必要があります。
- (3) 鉄道会社やバス会社では、水、保存食、毛布、トイレ袋などを備蓄したり、また帰宅ルート地図を作成しています。帰宅ルート地図には、帰宅支援ステーション、帰宅困難者一時滞在施設、避難所、給水所等の位置を記載しており、配布しているところもあります。しかし基本的には私たちが、日頃から万一来るに備えておくことが大事です。

## 1. 手などを清潔に

## (1) ウェットティッシュ



## (2) 少ない水で手を洗う

ハンドシャワー



ポンプボトル



## (3) デリケートゾーンの衛生



フェミンシートと携帯用ビデ

## 1. 手などを清潔に

(1) ウェットティッシュを多めに買っておく

(2) レジ袋と凝固剤の小袋をバッグに入れておく

◇ハンドシャワー

ペットボトルのフタに穴をあけて、水をシャワーのようにかけてもらう。

◇ポンプボトル

シャンプー等の空き容器に水を入れて使う。

## (3) デリケートゾーンの衛生

避難生活では、乳児のオムツ・生理用品（ナプキン・生理用ショーツ）・高齢者用オムツ・お尻ふきシート

◇お尻ふきシートなど衛生用品が不足したり、下着を替えられない等で外陰部が、不衛生になりがちです。特に乳幼児と女性は感染を起こしやすく注意が必要です。これらは尿取りパッド・おりものシート・携帯用ビデなどと共に、必要に応じて備蓄しておきましょう。

避難所では、これらの配布役を同性にして受け取りやすくしましょう。

## 2. ペットボトルを使った消毒液の作り方

\*出典 福山市  
「ノロウイルス対応マニュアル」付録

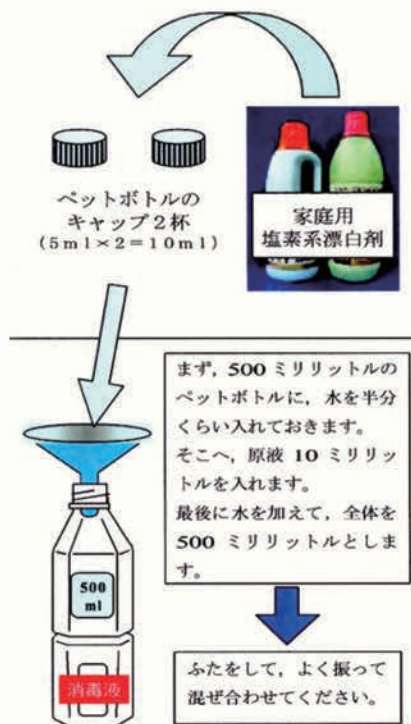
★次亜塩素酸ナトリウムは、市販の「家庭用塩素系漂白剤」にも含まれています。

★ここでは、代表的な「家庭用塩素系漂白剤(原液に含まれる次亜塩素酸ナトリウムの濃度約5%)」を使った消毒液の作り方をご紹介します。

便やおう吐物が付着した床、衣類、  
トイレなどの消毒をする場合

◆濃度が0.1%(1,000ppm)の  
消毒液を作ります

### 0.1%(1,000ppm)消毒液の作り方



(10ml×約5%/500ml=約0.1%)

おもちゃ、調理道具、直接手で触れ  
る部分などの消毒をする場合

◆濃度が0.02%(200ppm)の  
消毒液を作ります

### 0.02%(200ppm)消毒液の作り方



(10ml×約5%/2000ml=約0.02%)

### 【消毒液(次亜塩素酸ナトリウム溶液)を扱う時の注意】

- ・使用する時は換気を十分に行ってください
- ・有毒なガスが発生しますので、酸性のものと絶対に混ぜないでください!
- ・皮膚への刺激が強いため、直接触れないよう、ビニール手袋などを使用してください
- ・皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で十分洗い流してください
- ・目に入った場合は、直ちに大量の水で十分水洗いし、医師の診察を受けてください
- ・消毒液は、濃度が高いほどノロウイルスに対して有効ですが、反面、金属が錆びたり漂白(変色)作用が強くなったりしますので、注意してください
- ・金属に使用した場合は、消毒後水で洗い流すか、ふき取るなどしてください

## 1. トイレゴミについて



## 1. トイレごみの収集

- ◇トイレごみは、分別して保管しておきます。
- ◇ごみの収集が、再開されたら**普通ごみ**に出しますが、「**トイレごみ**」と大きく書いて下さい。
- ◇トイレごみは、完全に固めるか吸収させて、水分が出ないようにして収集に出して下さい。水分が出ると不衛生になります。
- ◇市の広報やホームページで、収集日を確認して出して下さい。

## 1. しっかり水分と食事をとって、しっかりトイレに行きましょう

過去の震災ではトイレが、見つからない、きたない、遠い、寒い、段差がある、和式トイレが使えないなどの理由で「トイレに行く回数を減らしたい…」と思ってしまい、そのために水分や食事の量を減らして、トイレに行くのをがまんしたりして健康をそこなう人が多かったとの事です。(脱水症、栄養不足、便秘、膀胱炎、エコノミークラス症候群、脳梗塞、心筋梗塞など)

健康を維持するためにはトイレ対策は重要です。 水は1日に2リットル以上は飲みましょう。

特に、寝る前に飲むことは大切です。水分を多く含む食べ物(味噌汁、スープ、果物など)も沢山食べましょう。

※エコノミークラス症候群とは？

車中泊などで長時間同じ姿勢をとりつづけると脚が圧迫されて血栓ができ(深部静脈血栓症)これが肺まで流れていって、肺動脈を詰まらせ呼吸困難を起こすものです。水分が不足していると血液がドロドロになり、血栓ができやすくなります。

## 2. 大災害の混乱の中でも、一人ひとりが「個室トイレを守る」行動を

自宅のトイレ、避難所のトイレやコンビニなどお店のトイレにかかわらず、一度「てんこ盛り」になってしまうと使えなくなってしまいます。大災害の後では、断水で掃除をする水も無く、詰まった排水管の修理をする業者も来られない状態になるからです。日頃から色々な場面に対応できる備えをしておく事が大切です。



非常用

# いざとき 簡易 トイレ の 作り方

付録

## <補強柱を作る>

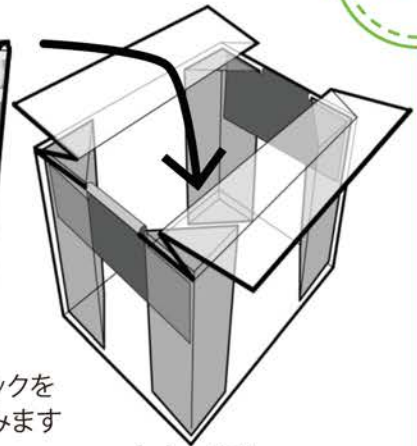


牛乳パックの角を1つ押し込んでキレイにたたみます。

たたんだパックをもう1つのパックにはめて



さらにパックを折りたたみます



これを4組作って

## <本体を作る>

- ①飲料水の段ボールを使用。一旦ボトルを取り出し段ボールをさかさまにします。

太線部は切るライン

底面はふたが開かないようにテープで止めます



注)細長いタイプの段ボールは不向きです。  
\*上下さかさにするのは持ち手の穴が④⑤の作業で邪魔になるからです。



②柱の高さまで切る(上から5cmくらい)



③柱の高さで柱の幅まで切る(水平方向に7cmくらい)



④←両脇をたたんで

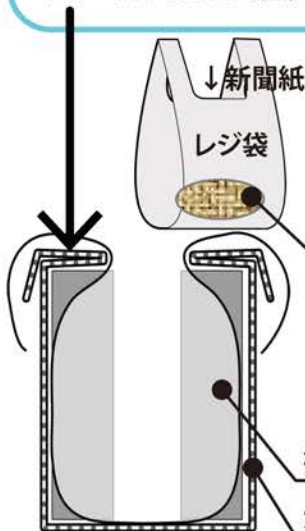


⑤箱の内側を広げる→

ガムテープなしで牛乳パックの補強柱が固定できます。

## <座面を作る>

ふたを牛乳パックの補強柱に乗るようにジャバラにたたみ、座面にします。



補強用柱(牛乳パック)

大きなビニール袋

## <使うとき>

大きなビニール袋をかぶせ、さらに内側にレジ袋を入れ、その中に新聞紙を敷き、底にネコ用の砂を入れます。使用後レジ袋を結び、別のビニール袋に捨てます。

## <常備の状態>

水と、トイレに必要なパーツは全て1袋に入ります。ネコ用の砂(5kg)も、ペットボトルを2本取り出すとスッキリと収まります。



出典：ユーコープ横浜南2エリア会

[http://www.ucoop.or.jp/kurashi/wisdom/report\\_20232.html](http://www.ucoop.or.jp/kurashi/wisdom/report_20232.html)